

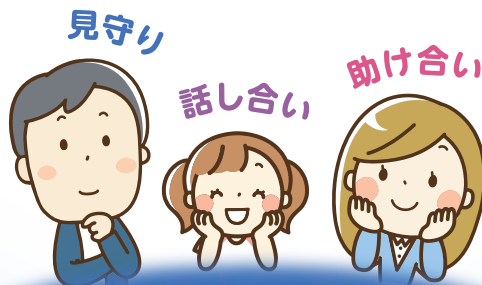
校(地)区社協がすすめるウェルクラブ活動の手引き

子どもたちの
ふれあいネットワーク活動

ウェルクラブ活動 を広げよう



訪問・交流



ふれあいネットワーク活動



体験・講座

子どもたちが
地域で
大活躍!!

目次

- ① ウェルクラブ活動とは 1
- ② ウェルクラブグッズ 2
- ③ 様々な活動内容 3・4
- ④ ウェルクラブのはじめ方 5・6

ふれあいネットワーク



社会福祉法人

北九州市社会福祉協議会



プチボザウルス

はじめに

平成14年に取り組みを開始した子どもたちの小地域福祉活動体験「ウェルクラブ活動」は、取り組む校(地)区社協や活動に参加する児童を徐々に増やしながら、それぞれの地域の特色を活かした活動へと発展しています。「ふれあいネットワーク活動」の体験学習だけではなく、様々な地域行事への参加や近隣社会福祉施設との交流など、保護者や地域住民も巻き込んで楽しみながら学べる内容となっています。

今では夏休み期間だけではなく、年間を通じた取り組みへと広がって、子どもたちはもちろん、大人にとっても地域福祉を学ぶ良い機会となっているようです。

この手引きは、このウェルクラブ活動がより多くの地域に広がり、世代を超えて続くようにとの願いを込めて作成しました。

1

ウェルクラブ活動とは

社会福祉協議会では、「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」のために、「ふれあいネットワーク活動」を中心とした校(地)区社協活動を展開しています。

この「ウェルクラブ活動」は、地域の宝である子どもたちに、見守り・話し合い・助け合いの3つのしくみからなる「ふれあいネットワーク活動」等を体験してもらうことによって、次の世代の子どもたちと保護者などの世代に対して福祉の風土づくりを進めるものです。

この子どもたちの活動を、**Well(適切、親切)・Welcome(歓迎)・Welfare(福祉)**をイメージして「**ウェルクラブ(Welclub)**」と名づけています。



実施主体	校(地)区社会福祉協議会
事業協力	各区社会福祉協議会・北九州市社会福祉協議会
対象者	小学校児童(原則として4年生～6年生)
実施期間	概ね6月～3月



ウェルクラブ活動は体験型「ふくし教育」

「福祉」は障害のある人、高齢者、生活に困っている人など特別な誰かのためのものではありません。私たち一人ひとりの暮らしの中にある身近なものです。最近ではひらがなで「ふくし」と表現することが多くなってきています。

「ふくし教育」とは「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ」の実現に向けてみんなで考え、学ぶことです。ウェルクラブ活動では地域福祉活動の体験を通して、「ふくし」を他人事ではなく我が事としてとらえ、「思いやりの心」や「ともに生きる力」を育んでいきます。

2

ウェルクラブグッズ

活動で使うグッズを紹介します!!

校(地)区社協担当者用



▲ウェルクラブ活動の手引き(本書)



▲ウェルクラブ活動参考資料集



▲ウェルクラブ活動リーフレット

地域や学校等への説明用に!!

参加児童用



注文票を使ってお申し込みください。

【基本グッズ】(無料)

▶ハンドブック



▲名札・名札ケース

【希望校(地)区のみ】

(有料:ウェルクラブ活動の助成金から支出可)



▲記念品 (例:まちづくりクッキー)



▲プチボTシャツ

記念品について

まちづくりクッキー「大切なまちっチャ」は、障害のある人の小規模作業所「太陽パン」と提携して販売しています。

みなさんのお住いの地域にも障害のある人の就労を応援する施設があるかもしれませんので、是非探してみてください。

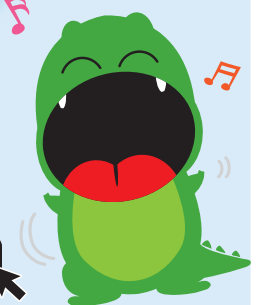
みんなで踊ろう!!プチボ体操

★ YouTubeにて配信中

プチボザウルスは、プチ(ちっちゃな)ボランティアの意味を込めた社協活動のイメージキャラクターです。

プチボザウルスに込めた願いを歌と体操で表現した「プチボ体操」は、子どもから大人まで幅広い世代に楽しんでもらえる体操です。

みんなで一緒に歌って踊って、あなたもまっちももっと元気に!

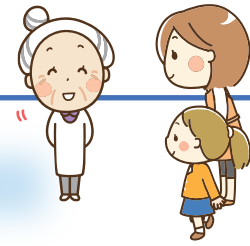


Q プチボ体操

検索

3

様々な活動内容



ふれあいネットワーク活動

見守り活動



福祉協力員に同行して訪問活動を行います

- 訪問の時には、まず、元気よくあいさつするよう子どもたちに伝えましょう。
- 訪問先の方から、普段の暮らしぶりを教えてもらいましょう。
- できていることや困っていることを子どもたちから質問してもらってもいいでしょう。

話し合い活動

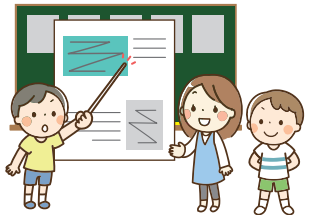


活動を振り返り、気付いたことを共有するために、活動発表会（報告会）を行います

- 子どもたちが感じたことや気付いたことなど、発表した内容は尊重しましょう。
- 発表の際には、ハンドブックにある体験感想文を活用してもらおうといいでしょう。
- ほかの子どもたちの意見を聞くことで、自分

の考えとの「違い」に気付くことも大切です。

- 保護者や学校関係者にも出席してもらい、子どもたちの姿を見守ってもらいましょう。
- みんなで自分たちの地域のいいところなどを話し合ってみるのもいいでしょう。



助け合い活動



福祉協力員と一緒に子どもたちにできるお手伝いをします

- 校（地）区の助け合い活動の中で、子どもたちにもできそうなことを考えてみましょう。
- 一人ではなく数人の班（チーム）で一緒に取り組むようにしましょう。
- 事故が起きないように余裕をもって取り組みましょう。

〔活動の例〕昔の話を聴く・古紙回収・庭掃除・手紙を書く

「助け上手」「助けられ上手」になること

ウェルクラブ活動での学びを通して、子どもたちの中には「困っている人がいたら助けたい」という気持ちが芽生えてくることでしょう。ここでもう1つ子どもたちに伝えてほしいことは、「助け上手は、助けられ上手」ということです。助けられた心地よさを体験した人は、自然と誰かを助ける（思いやり行動をとる）ことができるのではないのでしょうか。支え合って生きるとは、「互いに助け、助けられ」という思いやる関係性で「つながっている」ということなのです。誰かを助けるだけでなく、自分も困った時に「何に困っているのか、何に悩んでいるのか」を、ちゃんと言葉にして、あなたの心を受け止めてくれそうな人（家族、親戚、学校の先生、近所の人、友達など）に伝える・相談することが大切であることを子どもたちに伝えましょう。



活動内容は地域それぞれ!!
自分たちの地域に合った活動を見つけていきましょう!!

体験・講座

点字・手話体験、認知症サポーター養成講座等。
各区のボランティアセンターでは、各種福祉教材の貸出を行っています。

疑似体験プログラムをするときに気をつけたいこと

ふくし教育というによく疑似体験プログラム(例:車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験など)が挙げられますが、ただ体験するだけ、「できないこと」を知るだけで終わっていませんか?

子どもたちに何を学んで欲しいのかを明確にし、「できること」に着目したプログラムを実施しましょう。

障害のある当事者を招いて語ってもらうなどの交流体験も併せて計画したり、映像や写真のような資料を活用したりすることも大切です。



訪問・交流

社会福祉施設やサロン等の訪問、地域行事へ参加することで、地域の様々な人たちと交流します。

社会福祉施設の利用者やサロン参加者から何かを教わるという内容でもいいですし、ペアになって何か共同作業をしてみるというのもおすすめです。

一方が何かを「してあげる」のではなく、一人ひとりが会話をしながら一緒に時間を過ごす内容にしましょう。



その他



共同募金活動や地域の防災活動についても、機会があれば子どもたちの関わり方を検討してみてください。

様々な人との出会いから新たな気付きが生まれたり、「地域での自分たちの役割」について考えることにつながるかもしれません。



ウェルクラブ活動とSDGs

SDGs(持続可能な開発目標)は、平成27年の国連サミットで採択された世界の開発目標です。

多様な主体がSDGsという土俵の中で一緒に地域づくりをしていくのはとても大事なことです。SDGsの目指す「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会」は、普段のくらしの幸せの実現にも共通する部分が多くあります。

ウェルクラブ活動は、10年後、20年後の地域を子どもたちやその保護者世代とともにつくるSDGsの取り組みの一つになります。



4

ウェルクラブのはじめ方

ウェルクラブを立ち上げる時のポイント

ポイント 1

地域の状況を知る

- 地域にはどのような人たちが暮らしていて、どのような取り組みがあるでしょうか？
- どのような施設や企業・団体が協力してくれるでしょうか？



ポイント 2

中心メンバーを集める・つながる

- 活動の中心となるメンバーを募りましょう。
- 地域のボランティアや福祉施設等の協力者を増やし、地域で子どもを育む風土を作りましょう。



スケジュール(例)

4月

- 前年度の助成金報告



- 新年度の助成金申請



6月

- 関係機関への協力依頼



- 区社協開催の活動者向けウェルクラブ活動説明会への参加

7月上旬～中旬

上旬

- 参加募集・取りまとめ
- 説明会開催案内送付

中旬

- 校(地)区主催のウェルクラブ活動説明会



説明会・報告会次第(例)

ウェルクラブ活動説明会

- 1 挨拶
- 2 資料確認
- 3 活動紹介
- 4 ウェルクラブ活動について
- 5 活動者紹介
- 6 活動プログラムの紹介

ウェルクラブ活動報告会

- 1 挨拶
- 2 体験発表
- 3 保護者から・学校から
- 4 みんなで地域のことを話そう
- 5 活動記念品の配付

ウェルクラブを始めるにあたっての大まかな流れを紹介します。

ポイント
3

活動の目的や内容について話し合う

- 目的・ねらいをはっきりさせて関係者間でしっかりと話し合って共有しましょう。

例) 子どもたちに気付いてほしいこと、考えて欲しいことは?

保護者にも○○について理解して欲しい 等



ウェルクラブ活動の運営に悩んだ際は、社協職員にご相談ください!!



7月下旬～

- 発足式



- 活動開始

1～2月

- 活動発表会(報告会)開催案内送付
- 次年度計画を立てる



3月

- 活動発表会(報告会)



活動発表会(報告会)を開きましょう

ウェルクラブ活動は、「ただ活動すればよい」ということではありません。活動の中でどんな気付きがあったか、これからどうするかを子ども

たちと一緒に考えていく「振り返りから始まる学び」という取り組みが、子どもたちの福祉の心を育てていきます。是非、子どもたち一人ひとりに活動の振り返りをしてもらい、どんなことを感じたのかを聞いてみてください。

また、活動が終了した後は、次につながるように活動発表会(報告会)の機会を設け、一緒に活動した福祉協力員だけではなく、学校の先生や、保護者、訪問活動を受けてくれた方々にも参加してもらいましょう。

子どもたちと一緒に活動を振り返ることで、**個人の気付きから、集団の気付きへ、さらに福祉のまちづくりに関心を持ってもらう**、ウェルクラブ活動の理解者を増やしましょう。



「みんなが安心して暮らせる 支え合いのまちづくり」

子どもたちにとっては、いま暮らしているその地域がふるさとです。

「地域の人たちから、いろいろなことを教えてもらった、よくしてもらった」という体験をたくさん作ってあげることで、地域にお世話になったという感覚が芽生え、それが自分の地域を大事にできる子どもたちを育てることにつながり、やがて10年後20年後、地域に関わる意識へとつながります。

ウェルクラブ活動で、地域の人たちとのつながりを大切にしていけることを学んでもらえたら幸いです。



北九州市社会福祉協議会

地域福祉部	地域支援課	TEL	882-4425	FAX	873-1351
	各区事務所 ※下記に記載				

区事務所 (区社会福祉協議会)

門司区	事務所 (門司区社会福祉協議会)	TEL	331-3688	FAX	331-5994
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	322-2966	FAX	331-5994
小倉北区	事務所 (小倉北区社会福祉協議会)	TEL	571-5452	FAX	571-9553
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	562-2051	FAX	562-2051
小倉南区	事務所 (小倉南区社会福祉協議会)	TEL	951-5388	FAX	951-5391
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	951-5220	FAX	951-5391
若松区	事務所 (若松区社会福祉協議会)	TEL	761-3422	FAX	761-3660
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	761-2208	FAX	761-3660
八幡東区	事務所 (八幡東区社会福祉協議会)	TEL	681-6601	FAX	681-6013
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	662-0911	FAX	662-5671
八幡西区	事務所 (八幡西区社会福祉協議会)	TEL	642-5035	FAX	642-5077
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	642-0407	FAX	642-5077
戸畑区	事務所 (戸畑区社会福祉協議会)	TEL	871-3259	FAX	881-8557
	社協ボランティア・市民活動センター	TEL	881-8555	FAX	881-8557

